



新年のごあいさつ

鶴居村長 大石 正行

村民の皆様、あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと謹んでお慶びを申し上げます。また、村民の皆様には常日頃より村政各般にわたり格別のご支援、ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

さて、昨年の国際情勢を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、中東ガザ地区におけるイスラエル・パレスチナ紛争の激化に加え、台湾海峡を巡る問題など、地政学的緊張が一層高まりました。

一方、国内に目を向けますと、昨年10月に第104代内閣総理大臣として高市早苗氏総理大臣が就任し、憲政史上初めて女性が首相となる歴史的な政権が誕生いたしました。

また、4月13日から10月13日までの184日間、大阪・夢洲において「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催されました。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158か国世界中から多くの方々が訪れ、日本の技術や文化、そして未来社会の姿が世界に向けて発信されたところであります。

なお、本村においても9月6日から3日間ブースを出展し、タンチョウが生息する豊かな自然環境を始めとした村独自の魅力をVR画像で上映するなど、村の認知度向上、観光誘客及び関係人口の創出につなげるためのPRに努めたところです。

地域の動きに目を向けますと、昨年3月に鶴居中学校校舎等の大規模改修工事の完了を見たところであり、4月から生徒の皆さんが新たな環境で勉学や体力づくりに取り組まれております。今後においては、在校生徒をはじめ、地域住民の皆様にも、村の教育拠点施設として大いに活用いただきたいと願っております。

一方で、昨年3月末をもって長い歴史に幕を閉じた幌呂小学校、幌呂中学校が、それぞれ鶴居小学校、鶴居中学校へ統合されたところであります。なお、閉校後の校舎・体育館等の施設については、幌呂地域の活性化に資するよう有効利用を検討してまいりたいと考えております。

また、昨年4月に、国が推進する「地方創生2.0」の取組の一環として、国の職員が地域に入り、自治体の課題に寄り添いながら支援を行う「地方創生伴走支援制度」に採択されたところであり、本村を担当する3名の地方創生支援官の支援を受けながら、釧路湿原国立公園エリアを活用したアドベンチャートラベル展開事業の推進や、地域の様々な課題解決に向けた取組を今後も進めてまいりたいと考えております。

基幹産業である酪農畜産においては、エネルギー価格の上昇や原材料費の高騰、円安、地政学リスク、人件費や物流費の増加、長期化したコロナ禍の影響から続く牛乳・乳製品の需要低迷など複数要因が重なり、物価高騰が解消されず、厳しい経営環境に置かれています。

村は、これまでも釧路丹頂農協などと協調して、牛乳の消費喚起や原油価格の高騰に伴う緊急経済対策支援補助事業、飼料価格高騰緊急対策補助事業等による経営支援を講じてきたところであり、今後も農業団体や農業者などとともに今後における農業情勢の把握や分析、農家経営の実情等を注視しながら、必要な行動や対策を検討してまいります。

そして、新たな年も本村の持つ魅力や特色を最大限に活かし、村民の皆さんが心豊かに暮らせる環境を確保するとともに、酪農・畜産の持続的な発展や観光を中心とした地域経済の活性化、医療や福祉の充実、教育環境のさらなる向上のほか、かけがえのない自然や美しい景観を守りながら、村全体で力を合わせて「美しい村づくり」推進に努めまいりたいと考えております。

また、つるい未来創造プラン(第5次鶴居村総合計画)のテーマであります「未来を奏でる鶴居スタイルの確立～協働による新たな時代への挑戦～」の実現を目指し、村が取り組んでいかなければならない事務事業が山積しているところであり、本年においても全力で邁進していく所存であります。

併せて、新たな第6次鶴居村総合計画の始期が令和10年であることから、次の10年に向けた新しい村づくりの指針策定の構想にも着手してまいりたいと考えております。

今年の干支は「丙午(ひのえ・うま)」です。「丙」は太陽の輝きのように物事が明らかになり大きく広がる様子を、「午」は天高く駆け回る馬のように旺盛な生命力と、物事が「正午(真昼)」のように明るさの絶頂にあることを表しているそうです。この2つの組み合わせである丙午は、「公明正大に、力強く未来へ向かって駆け抜ける」という非常にエネルギーに満ちた年とされています。村の将来を照らす明るい兆しが見え、私たち一人ひとりの営みが力強く前進する、まさに未来への活力がみなぎる実り多き1年となりますことを心から願っております。

結びに、新年が鶴居村にとって、村民の皆様とともに光り輝く飛躍の一年となりますよう、心からご祈念申し上げ、謹んで年頭のごあいさついたします。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



新年のごあいさつ

鶴居村議会議長 **松井 廣道**

新年あけましておめでとうございます。

希望に満ちた新春をご家族お揃いで迎えられましたこと、謹んでお慶び申し上げます。

村民の皆様には、日頃から村議会に対しまして深いご理解と温かいご支援を賜り、議員一同、深く感謝とお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、社会全体が新たな局面を迎えた一年でした。

国政においては、高市内閣が発足し、政策の方向性や国の課題への取り組みが改めて注目されました。

女性の社会参画や多様性の尊重を進める機運が高まったことは、地方自治体においても重要なテーマであり、本村の村づくりにも大きな示唆を与えることと感じております。

また、急速に進むデジタル化や生成AIの普及は、地域社会の在り方にも影響を及ぼし、行政サービスや教育、産業活動など多くの場面で新たな可能性が広がりました。

こうした中、昨年は世界陸上が日本で開催され、世界屈指の選手たちと競い合う日本人選手の姿は、我々に多くの感動と刺激を与えてくれました。

村内においても、鶴居アスリートクラブをはじめとした様々なスポーツで活躍しており、将来、鶴居村出身又はゆかりのあるアスリートによる活躍も夢ではありません。

村民のスポーツ活動振興や健康維持と増進に大いに期待いたします。

一方で、経済においては、依然として物価上昇やエネルギー費の高騰は、住民生活に直結する問題であり、家計への負担が増しております。

それに対して、昨年は企業や自治体による賃上げの動きや労働環境の改善など、暮らしを支えるための取り組みも全国的に進展しました。

また、人口減少と高齢化という構造的課題は、私たちの地域社会にとって避けて通れない現実として、より鮮明に現れてきています。

子育て支援の強化や移住定住の促進、空き家対策、高齢者の地域包括支援など、地域が抱える課題は複雑さを増しており、村としての政策と住民の協働がこれまで以上に重要となっています。

加えて、デジタル化の推進や脱炭素社会への移行、国際的なイベントや交流の拡大など、未来を見据えた取り組みも加速する中で、地域の持続可能性をどのように確保していくかが問われています。

しかし、制度を整えるだけでは、真に温かく住み続けたいと思える地域は完成しません。

地域を支えるのは、村民お一人おひとりの行動とつながりであり、自治会や学校、企業など、さまざまな主体が連携して力を尽くすことではじめて、地域社会は豊かに育まれます。

2026年も、議会としての役割をしっかりと果たし、村政が着実に前へ進むよう、議員一同力を尽くしてまいります。

今年の干支は丙午（ひのえうま）であります。丙は「陽の火」を表し、午は「午（うま）」で勢いと行動力を象徴します。

丙午の年は、挑戦と成長の年であると同時に、勢いに任せすぎず冷静な判断を忘れないことが肝要とされています。

私たちも地域の伝統を大切にしつつ、新たな挑戦を着実に進め、村の持続的な発展を目指してまいります。

議員一同は、本年も村民皆様の声を真摯に受け止め、政策に反映してまいる所存でございます。

また、女性や若者、高齢者、障がいのある方など、あらゆる立場の方が社会参画しやすい議会運営と政策立案を心掛け、多様な視点を取り入れた持続可能な地域づくりを推進してまいります。

村民の皆様のご健康とご多幸、そして鶴居村の更なる発展を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

あけまして おめでとう ございます

村 長 大石 正行
副 村 長 高松 一哉
教 育 長 田中 敏行

鶴居村議会
議 長 松井 廣道
副 議 長 松井 洋和
議 員 吉田 保博
議 員 東 隆行

議 員 佐藤 吉人
議 員 松井 俊治
議 員 大津 泰則
議 員 及川 満浩
議 員 板 宏哉

監査委員
代表監査委員 灰塚 玲子
議選監査委員 大津 泰則

教育委員会
教育長職務代理者 高橋 文雄
委 員 坂本 和也
委 員 藤原 千晶

農業委員会
会 長 明歩谷正志
会長職務代理者 手塚 信幸
委 員 齊藤 滋

委 員 東 隆行
委 員 増田 慶一
委 員 塩越 克哉
委 員 瀧澤 一成
委 員 熊谷 郁子
委 員 水本 梨佳

選挙管理委員会
委 員 長 渡辺 巖

職務代理者 白木 良雄
委 員 松井 基廣
委 員 大槻 典行

固定資産評価審査委員会
委 員 長 野澤 弘幸
委 員 松井 基廣
委 員 竹中 憲之

ほか職員一同